

はやちねさん

早池峰山周辺森林生態系保護地域

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 盛岡森林管理署
所在地	岩手県(盛岡市)
面積	4120.08ha
設定年	平成5年(設定)
保護林の概要 (設定目的)	早池峰山周辺は、超塩基性の蛇紋岩質岩地域と非蛇紋岩質岩地域に大別される基岩の相違による植物相の対照が顕著であり、ブナ及び青森ヒバの名称で知られるヒノキアスナロを主体とする天然林が存在している。



モニタリング調査概要

実施年度	令和6年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、動物調査(哺乳類)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として、ブナの生育地において調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。哺乳類自動撮影を実施。
結果概要	ブナを主体とした森林にニホンジカの痕跡が見られ、下層植生に影響が出ている。ブナの高木は良好な生育が確認された。林況に大きな変化はなく、林相は維持されていた。自動撮影カメラによりニホンジカの成獣、幼獣が撮影された。引き続きニホンジカの生息状況について注視していく。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

山王海ネズコ遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 盛岡森林管理署
所在地	岩手県(紫波町)
面積	5.45ha
設定年	平成2年(設定)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	岩手県紫波町の山王海ダム上流に位置する、ネズコとヒバを主とする天然林。このネズコの遺伝資源の保存。 なお、本保護林は山王海ネズコ林木遺伝資源保存林から移行したものである(H29.4.1 時点で統合、増減はなし)。



モニタリング調査概要

実施年度	令和6年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として、ネズコ、ヒバの生育地において調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。1箇所は森林生態系多様性基礎調査の結果を活用。
結果概要	ヒバを主体とした森林に病虫害、鳥獣害等の目立つ被害は見受けられなかった。保護対象樹種ネズコはまばらに生育し緩やかに生長していた。林況に大きな変化はなく、林相は維持されていた。

男助山鶯宿スギ希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 盛岡森林管理署
所在地	岩手県(雫石町)
面積	15.00ha
設定年	大正12年(設定)、平成元年(再編)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	岩手県雫石町の鶯宿川上流部に位置する、天然スギ、ヒバ、ネズコ、落葉広葉樹混交林で、このうち天然スギを保存すると共に自然の推移に委ねた場合の変化を観察・記録し、学術上並びに森林施業上の資料とする。



モニタリング調査概要

実施年度	令和6年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として、スギの生育地において調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	スギを主体とした森林に病虫害、鳥獣害等の目立つ被害は見受けられなかった。保護対象樹種スギは、保護林内での良好な生育が確認された。林況に大きな変化はなく、林相は維持されていた。

北上山御堂松希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 盛岡森林管理署
所在地	岩手県(岩手町)
面積	10.33ha
設定年	昭和36年(設定)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	岩手県岩手町の北上川東部に位置する、南部アカマツの系統をくむ「御堂松」を保存すると共に、自然の推移に委ねた場合の変化を観察・記録し学術上並びに森林施業上の資料とする。



モニタリング調査概要

実施年度	令和6年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として、アカマツの生育地において調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	アカマツを主体とした森林に鳥獣害、気象害等は見受けられなかった。保護対象樹種アカマツは、良好な生育が確認された。穿孔痕のある枯損木があり、松くい虫の被害を考慮して注視してゆく。

蔵王生物群集保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 仙台森林管理署
所在地	宮城県(白石市、川崎町、蔵王町、七ヶ宿町)
面積	4,793.12ha
設定年	平成12年(設定)、平成16,23,26年(面積増)、平成29年(統合による面積増、再編)
保護林の概要 (設定目的)	本保護林は奥羽山脈南部の蔵王連峰に位置し、山地帯から亜高山帯にかけての希少な植物及び群落が見られる。これらの植物群落を一体のものとして保存するとともに、森林生態系の効果的な保全に資する。



保護林内の状況



自生のカラマツ

モニタリング調査概要

実施年度	令和6年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none"> ・No.2では、オオシラビソが、No.4では、ダケカンバが優占しており、全体的な出現種、種数、胸高断面積合計の傾向は前回調査とおおむね同様であった。下層植生調査では優占種、植被率ともに大きな変化はみられなかった。 ・林相等に大きな変化はなかったが、主要樹種であるオオシラビソの立ち枯れが一部で継続して確認されている。オオシラビソの枯損被害に対する対策は引き続き実施していく。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

青葉南モミ希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 仙台森林管理署
所在地	宮城県(丸森町)
面積	5.54ha
設定年	大正8年(設定)、平成3年、29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	宮城県丸森町の阿武隈川支流雉子尾川上流に位置する丘陵林であり、モミを優占種とし、イヌブナやカエデ類が混生する針広混交林である。この地域の極相と考えられるモミ-イヌブナ群落の林分であり、非常に貴重である。



保護林内の状況



モミの大径木

モニタリング調査概要

実施年度	令和6年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none"> ・モミの大径木が優占する針葉樹林であり、おおむね健全な状況が確認された。。また、全体的な出現種、種数、胸高断面積合計の傾向は前回調査の結果とおおむね同様であった。 ・林相等に大きな変化はなく、安定して維持されている。

鉤取山モミ希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 仙台森林管理署
所在地	宮城県(仙台市)
面積	9.08ha
設定年	大正10年(設定)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	本保護林は、太白山県自然環境保全地域の北東部、仙台市青葉区の南側に位置し、モミを主としイヌブナ等が混生する天然の針広混交林である。これらの森林は宮城県の丘陵地における原生的な自然状態を保っていると考えられており、この地域の気候的極相林と捉えられている。



保護林内の状況



モミの大径木

モニタリング調査概要

実施年度	令和6年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none"> ・調査プロットの林相に大きな変化はなく、おおむね健全な状況が確認された。モミの胸高断面積に減少がみられ、全体的に落葉広葉樹種の胸高断面積が微増した。 ・一方で、保護林内でナラ枯れ・松食い被害木が発生していた。今後も引き続き継続的なモニタリングを実施し、森林の状況及びモミ等の立木の生育状況に応じた保全対策の検討について留意していくことが望ましい。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

鳥海ムラスギ遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 由利森林管理署
所在地	秋田県(由利本荘市)
面積	13.18ha
設定年	昭和41年(設定)、平成3年(再編)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	鳥海山麓の標高650mに成立しているこの地域唯一の天然スギ自生地。スギのほかブナ、ミズナラが混生しており、スギの多くは地上3～4mで樹幹が分岐し特異な形態を示し、積雪量と関係が深いと考えられている。この鳥海ムラスギ・ブナの遺伝資源の保存を目的とする。鳥海ムラスギ林木遺伝資源保存林から移行したものである。



保護林内の状況(プロット1)



保護林内の状況(プロット2:H3に台風被害)

モニタリング調査概要

実施年度	令和6年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none"> ・平成3年の台風19号により甚大な被害を受けた箇所であるが、前回調査時(平成26年)から林相等に大きな変化はなかった。 ・プロット1は被害が比較的少なかった箇所であり、林分は安定して維持されており、鳥海ムラスギ群落の維持が期待できる。 ・プロット2は台風被害が甚大だった箇所であり、天然スギ林の回復が困難な状況が継続していることが確認できた。

獅子ヶ鼻湿原希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 由利森林管理署
所在地	秋田県(にかほ市)
面積	26.11ha
設定年	平成3年(設定)、平成9年(拡大)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	鳥海山の噴火活動等によって形成された湧水地から出る豊富な湧水により涵養されて成立した湿地帯と周囲のブナ林によって構成された、独特の景観をなす湿原になっている。流水中及びその周辺には大量のコケ類が見られ、その生育状況は、本邦の他地域には類例が見られないものである上、希少種が確認されているなど、植物相が豊富な点でも学術上極めて価値が高いものとなっている。この獅子ヶ鼻湿原の水生・湿原植物の保護を目的とする。



保護林内の状況(プロット1:湿原内)



保護林内の状況(プロット2:ブナ林内)

モニタリング調査概要

実施年度	令和6年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none"> ・林相や湿原に大きな変化はなく、流路も豊富な水量が維持されており、安定した状況であることが確認された。 ・前回調査で確認されたミズナラのナラ枯れ被害についても、今回新たなものは見られずナラ枯れの発生は落ち着いている。 ・ただし秋田県内においてはナラ枯れ被害が継続しているため今後の注視が必要である。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。